

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	設計製図4 (Atelier Practice of Design and Drawing 4)		授業コード	L030951
担当教員名	西村 謙司、島岡 成治、光浦 高史		科目ナンバリングコード	L30309
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	コース選択必修 建築コース インテリアデザインコース 建築設計コース 住居・インテリアコース 選択 環境・地域コース 建築工学コース 環境地域(まち)コース 環境地域(社会)コース	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	毎回の提出物を約束通り提出できることが条件です。特別の場合を除いて例外は認められないので注意しておく必要があります。			
受講心得	毎回課される自宅課題を決められた時間までに提出する必要があります。			
教科書	必要に応じて資料配布します。			
参考文献及び指定図書	『建築設計演習 応用編—独立住居から集合住居の設計まで』(彰国社)武者英二他 『学校建築ルネサンス』(鹿島出版会)上野淳			
関連科目	建築計画、建築設計など			

授業の目的	「設計製図4」では、設計製図1～3で養われた基礎的な設計能力をさらに発展させるため、機能的に少し複雑な課題を取り上げ、デザイン能力の充実を図ります。少人数のグループを一単位として、討論を行いながら演習し、そこで、建築の機能計画や造形的構成に関する能力はもとより、プレゼンテーションや社会的提案の能力の向上を図ります。
授業の概要	第1課題「小学校」では、<地域に根ざした学校建築>のあり方が、第2課題「低層集合住宅」では、<共生する住まい>のあり方が求められ、このような課題を通して、建築の設計技術を向上させるとともに建築の社会的意義を考える力を身につけます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：課題説明1 設計製図4の学習意義を解説します。また、第一課題である<地域に根ざした学校建築>の設計条件を説明する。加えて、過去に建築された学校建築の事例研究を行います。	過去の作品調査 敷地分析
第2週：敷地分析とコンセプト 建築の敷地分析を行い、その分析結果を発表し合い敷地の特性理解を深めます。また、各自が設定した建築のコンセプトを発表し、建築設計の意図を明確にします。学校の社会性をふまえた計画の提案能力が求められます。	与条件の整備 コンセプトの作成
第3週：シエマの作成 第2回目に設定したコンセプトを図式化し、建築の平面構成の基礎を作成します。同時に、全体の造形イメージを具体化します。学年毎の特性とクラス毎の特性を設定し、コミュニティーの全体構成能力を育成します。	シエマの作成
第4週：エスキスと図面の作成 第3回目に作成したシエマを基礎にして、エスキスを進め、平立断面図を作成します。理想イメージの核として作成されたシエマを現実のものとして具体化する能力を育成します。	エスキスと図面の作成
第5週：図面の作成	

平立断面図を綿密に練り上げます。理想と現実のずれを自覚し、理想像を現実の世界に投影する力を養います。理想イメージの具体化の困難と突破方法を模索します。		図面の作成
第6週：プレゼンテーション図面の作成 作成した図面を基に、全体像を第3者に伝えるためのプレゼンテーション図面を作成します。3次元で構成された建築空間を2次元の平面に投射し表現する方法を学習します。		プレゼンテーション図面の作成
第7週：講評会 作成したプレゼンテーション図面を用い、口頭で作品の内容を説明することによって、3次元で構成された建築空間を第3者に伝えるトレーニングを試みます。加えて、他の作品を講評する能力を習得します。		提出作品の自己分析
第8週：課題説明2 第2課題である「共生を課題とした低層集合住宅」の設計条件を説明します。さらに、過去に建築された集合住宅の事例研究を行います。		過去の作品調査 敷地分析
第9週：敷地分析とコンセプト 低層集合住宅に相応しい敷地を各自が設定し、その敷地分析を行います。また、各自が設定した建築のコンセプトを発表し、建築設計の意図を明確にします。集合住宅のコミュニティのあり方を検討します。		与条件の整備 コンセプトの作成
第10週：シエマの作成 前回設定したコンセプトを図式化し、建築の平面構成の基礎を作成します。同時に、全体の造形イメージを具体化します。さらに、集合住宅の住宅パターンと家族構成の設定を検討し、図化します。		シエマの作成
第11週：エスキスと図面の作成 前回作成したシエマを基礎にして、エスキスを進め、平立断面図を作成します。理想イメージの核として作成されたシエマを現実のものとして具体化する能力を育成します。		エスキスと図面の作成
第12週：図面の作成 平立断面図を綿密に練り上げます。理想と現実のずれを自覚し、理想像を現実の世界に投影する力を養います。理想イメージの具体化の困難と突破方法を模索します。		図面の作成
第13週：プレゼンテーション図面の作成 作成した図面を基に、全体像を第3者に伝えるためのプレゼンテーション図面を作成します。3次元で構成された建築空間を2次元の平面に投射し表現する方法を学習します。		プレゼンテーション図面の作成
第14週：講評会 作成したプレゼンテーション図面を用い、口頭で作品の内容を説明することによって、3次元で構成された建築空間を第3者に伝えるトレーニングを試みます。加えて、他の作品を講評する能力を習得します。		提出作品の自己分析
第15週：全体講評 作成した2つの作品を反省し、改善する点を見だし、つぎのステップに進む道を探ります。		提出作品の自己分析
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリ III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	設計課題に関して、自ら情報収集を行い、それをもとに、建築作品を制作する。
【知識・理解】	建築の機能計画、造形構成の修得。

【技能・表現・コミュニケーション】	デザイン能力の向上
【思考・判断・創造】	プレゼンテーション能力、社会的提案能力の修得。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			25点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		25点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		25点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		25点		
(「人間力」について)				
<p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	原則として毎回、課題のチェックをします。提出および発表をもって出席に代えますので、毎回、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	毎回、課題の提出、発表、チェックを行います。その内容が採点されます。